

城里町の文化財さんぽ(五七)

町指定文化財(絵画)

イコン「至聖生神女」

指定年月日/平成三一年三月二八日
所在地/城里町上坪
管理・所有者/坏ハリストス正教会

イコンとは、正教(キリスト教最古の教派)における聖像画のことです。ハリストス(キリスト)や至聖生神女(聖母マリア)・聖人等を描くイコンは、神に至る門(または扉)として、正教の礼拝時に用いられます。

町指定文化財「イコン」『至聖生神女』は、カンバスに油絵具で聖母マリアを描いたもので、手本を忠実に模写するという中世ビザンチンのキリスト教芸術観念を現代に



伝えています。イコンの大きさは、

縦一三八センチメートル・横六四センチメートル程で、正面に立つとその存在感に圧倒されます。制作年代は明治時代後期と推定され、作者は笠間市出身のイコン画家「山下りん」と伝えられています。

山下りんは、明治一三(一八八〇)年から三年間、ロシアのサンクトペテルブルグ修道院でイコン制作を学びました。帰国後は、東京都神田のハリストス正教会内のアトリエで、数百点ものイコンを制作しています。

坏ハリストス正教会は、上坪の猪野亀太郎が中心となり、明治二二(一八八九)年に設立されました。現在では県内唯一の正教会です。解説文/町文化財保護審議会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎029-288-3135

俳句

竹林に風わいてくるぬくき冬
瀬谷 博子
凍蝶や四代の御代生かされて
今瀬 多代美
波を追ひ波を躰して浜千鳥
中野 千賀子
厄払ひの磯前神社寒紅梅
綿引 英子
泥水は埃となりし猫じゃらし
飯田 勇一
ていねいに焼く餅父のはるかなり
竹内 幸子

長年の光降り来る冬木の芽
仲田 まちゑ

諸鳥の声の鋭き冬木立
田口 勝元

朝もやに敷きつめられし落葉道
羽石 雅春

着ぶくれて恐ろしきもの何もなし
寺門 孝子



川柳

世も変り御節料理も宅配で
富田 多蔵
ハトない義理チョコばかりのバレンタイン
車田 綾子
今日もまた予定はないが何かする
飯村 孝一
筑波空戦いし我今生きて
川原 清

文芸しろさと

短歌

みづからの意志で動けぬ齢となり
感謝をしつつ楽しく生きむ
山形 式妙
焼きにんにく真綿につつま首に
巻きくれたる母を偲ぶ冬冷え
杉山 みちこ
ふわふわの落葉踏みつつ軽やかに
秋陽射し込む木立の中ゆく
大森 久子
祖父によく似たる末孫を久々
に見れば遠き日甦り来る
佐川 あや
遠き日の夫と行きたる旅にして
帰路の飛行機ファーストクラス
所 美恵子

夕焼はいま美しく広がれり
遠きふるさとの空も染めるむ
渡辺 千紗子

ささらぎに逝きたる母の面影
を思い出させる庭のろうばい
島 愛子

令和の朝如何な心でお立ち台
サングラス姿の上皇后さま
信田 育子

新年の虚空蔵尊に参詣す小
正月なる人出賑わう
富田 佐智子

成人の日を迎えたる長女孫
の振り袖姿いと初々し
萩谷 登喜子

働いた寡黙な夫は天国へ広
い茶の間は寒くてむなし
藪部 光子

孫集め暮れの餅つきにぎやかに
小雨の中で心晴れば
富田 欽子
町の幸呼ぶに誑すや告訴す
る温故知新も我の道行く
矢次 洋平

